

平成30年度実施事業

協働事業報告会

◆開催日 令和元年5月18日(土)

◆会場 ひらつか市民活動センター

目次

- スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・P1
- 協働事業報告書
 - ①不登校・ひきこもり改善・自立支援事業・・・・・・・・・・P2
 - ②ひらつか市民活動センター協働運営事業・・・・・・・・・・P32

平成30年度実施協働事業 報告会

●開催日：令和元年5月18日（土）

●会場：ひらつか市民活動センター

時 間	内 容
14:00	協働事業報告会開会 <ul style="list-style-type: none">・協働事業審査会委員長あいさつ・協働事業審査会委員紹介・事務局説明（スケジュールと発表の方法など）
14:10	1. 平成30年度実施事業の報告（プレゼンテーション） <p>※各事業ごとに報告発表（8分：団体4分、行政4分） 審査員からの助言等（5分）</p> <ul style="list-style-type: none">◆市民提案型協働事業<ul style="list-style-type: none">①不登校・ひきこもり改善・自立支援事業◆行政提案型協働事業<ul style="list-style-type: none">①ひらつか市民活動センター協働運営事業 2. 委員長総評
15:30	閉会予定

平成 30 年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長 殿

団 体 名	特定非営利活動法人ぜんしん		
団体代表者	柳川 涼司	印	
事業担当課名	健康・こども部	青少年課	
事業担当課長	篠崎 光徳	印	

平成 30 年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	不登校・ひきこもり改善・自立支援事業		
事業開始年度	平成 28 年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	364,892 円	内 訳	市の支出 356,100 円 ----- 団体の支出等 8,792 円
事業の概要	<p>本事業では、平塚市と NPO 法人ぜんしんが協力し、ゲームやネット依存などにより不登校・ひきこもりに陥り、悩んでいる当事者親子が集い、相談等が出来るフリースペースを平塚市青少年会館の会合室 C ほかに開設をした。</p> <p>フリースペースにおいて子どもは、NPO 法人の元当事者や他の参加者とゲーム等の遊びを交えて、外出の機会を得た。</p> <p>また、保護者は、市の相談員及び NPO 法人の元当事者等が相談に応じ、挫折や回復の体験談の提供や支援機関等の情報提供を行うことで、自立に向かう為の支援を実施した。</p>		
具体的な実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開催日時：[第 1 回目] 平成 30 年 5 月 12 日(土)、10 時から 17 時 [第 2 回目] 平成 30 年 6 月 30 日(土)、10 時から 17 時 [第 3 回目] 平成 30 年 9 月 8 日(土)、10 時から 17 時 [第 4 回目] 平成 30 年 10 月 13 日(土)、10 時から 17 時 [第 5 回目] 平成 30 年 11 月 17 日(土)、10 時から 17 時 [第 6 回目] 平成 31 年 1 月 19 日(土)、10 時から 17 時 ・ 実施場所：平塚市青少年相談室(平塚市浅間町 12 番 41 号) ・ 参加者数：[第 1 回目] 8 名 [第 2 回目] 8 名 [第 3 回目] 12 名 [第 4 回目] 6 名 [第 5 回目] 11 名 [第 6 回目] 18 名 ※述べ参加人数：63 名 ・ 活動内容：青少年会館の 3 部屋に加え、体育館を活用し、市の相談員と団体スタッフが各参加者に対して、個別相談や意見交換等に応じた。 <p>※詳細については、別紙参照</p>		

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

不登校・ひきこもり改善・自立支援事業(H30 年・第 1 回)事業報告書

1. 日時:2018 年 5 月 12 日(土) 10 時 00 分-17 時 00 分
2. 場所:平塚市青少年会館 A 会議室
3. 出席者:平塚市青少年相談室 4 名、NPO 法人ぜんしん 4 名
4. 主な活動報告:青少年相談室管轄の 3 部屋(会議室や和室)を利用し、市の相談員と団体スタッフが、以下の通り、各参加者の相談に応じた。

1) 相談対応

- ① 平塚保健福祉事務所の紹介で 1 名、母親(50 代)が息子(20 代)の相談に来訪。

市の相談員とぜんしんのスタッフとで面談。主訴は、息子とどのように接していくのがよいか?と
いった内容だった。自宅にこもりがちの息子の状態に業を煮やした父親が息子に対し、「今後の支援
はしない、出ていけ」、と強い口調で叱責した。その結果、最近食事をとらなくなっており、体重が減
少する等しており、母親は不安が募っている。また家族の会話も少なく、状況を変える契機になるこ
とを期待し相談に訪れたが、市の相談員と団体スタッフがそれぞれの立場で助言を行うと「解決に
向けて方向性が見えた」と話されていた。

- ② 継続相談の男性(30 代)が来訪。

この相談会に毎回、来訪される継続相談者。初めて相談に訪れた際は、「父親を殺してやりたい」
といった強い怒りをあらわにした発言が多くみられた。今回は、怒りの感情表現はあるものの、コン
ロールすることができるようになってきていると感じられた。

2) 参加者との意見交換、ゲームコーナーでの対応

午前中はカードゲームを中心に活動を開始した。4 種類程度のカードやアナログゲームを活用し
た。当事者の方が持参したカードゲームで遊ぶ際は、ルール説明や進行を当事者の方が自ら行って
おり、積極的に他者とコミュニケーションを交わす姿が見られた。また、自分の意見や考えを表明し、
参加者と質疑応答しながら進行するカードゲームだったため、自然と他者とのコミュニケーションを
とり、いろいろな考え方や意見があることを感じる機会となっていた。

午後は、ビデオゲームの投影用のプロジェクターを用意するまでの間は、参加していた全員でカ
ードゲームで遊び、盛り上がっていた。プロジェクターに投影しての対戦形式でゲームを行う際も、
やりたいゲームがある場合は、自ら手を挙げて参加する姿が見られた。閉会の活動振り返りでは、
「勝ててよかった。」「練習してきてください。対戦相手になります。」といった積極的な発言があった。

5. その他関連事項

- ① 会議室の出入り口について

前回の懸念だった出入り口の眼隠しとして設置したパーティションにより、室内にいても視線が気
になることはなかった。

- ② 次回の会場に関する市側からの提案

相談対応が重複した場合に、オープンスペースでの相談はプライバシー保護の観点で懸念があ
るため、複数会場を押さえることができるか?と質問したところ、今回の A 会議室から 1 階の元食堂
室での開催を提案される。元食堂室での開催について懸念や意見の交換を行った。

結論としては次回も今回同様の A 会議室で開催することになった(元食堂室は電灯の照度が十分
ではなく暗い印象であること、他の来館者の視線や扉がないことでお子さんなどが入室してくる可
能性があることなどを考慮)。

6. 今後の課題

- ① パンフレットやチラシの提供について(市側からの要望)
今回の提供タイミングが遅かったため、配布期間が実質 4 日間と短く、周知活動が不十分だった。早めにチラシを提供してほしい。各所に配布する必要部数はこちらで印刷して配布する。
- ② パンフレットとチラシの記載内容について(市側からの要望)
開催日時は、全体で 6 回の開催があることがわかると、単発ではなく、今回都合が合わないが次回参加したい方から問い合わせしやすくなると考える。記載内容に工夫をしてほしい。
- ③ 仮眠等の休憩用の和室の利用について
今回、和室を用意されていたことを失念していた。実際、相談会に参加した男性が A 会議室で椅子を並べて仮眠をする場面があったので、次回からは畳部屋(和室)を案内していきたい。

平成 30 年 5 月 12 日 平塚市協働事業 第 1 回 アンケート集計結果

○ 参加人数:8 名 □ アンケート回収数:5 枚

項目 1 相談会の情報をどちらから知りえましたか。

インターネット	0	0.0%
告知パンフレット	1	20.0%
広報ひらつか	0	0.0%
知り合いからの紹介	4	80.0%
JR 平塚駅掲示ポスター	0	0.0%
行政機関の紹介、その他	0	0.0%
合計	5	100.0%

項目 2 利用された支援内容はどちらになりますか(複数回答可)

市の相談員による相談	0	0.0%
元当事者(親)による相談	0	0.0%
元当事者(子)による相談	0	0.0%
カードゲーム等のゲームコーナー	5	83.3%
意見交換コーナー	1	16.7%
ミニ・パソコン講座	0	0.0%
合計	6	100.0%

項目 3 このような相談会を今後、希望されますか。

毎月開催	2	40.0%
3 か月に一度	3	60.0%
半年に一度	0	0.0%
1 年に一度	0	0.0%
その他	0	0.0%
合計	5	100.0%

2. 本日、利用された支援内容は、どちらになりますか。ご意見・ご感想をどうぞ。

楽しくコミュニケーションをとることが出来ました

黒ひげにカードに書かれた数自分さすという工夫したゲームで三連続であたってしまったのですが盛り上がったので良かったです。12swioth がいいと盛り上がって楽しかったです

知らなかったカードゲームもできて 1 つ出来ることが増えた感じがします。

かなり白熱した。もっとやりたくなった。

ゲームや話を通していろいろな意見交換ができて良かったです

3. このような相談会を今後、希望されますか。ご意見・ご感想をどうぞ。

こういった場が多くあると色々な方とお話できてうれしいです

5. 今後の事業への要望

たまに体を動かせるイベントもしたいです

以上

不登校・ひきこもり改善・自立支援事業(H30 年・第 2 回)事業報告書

1. 日時:2018 年 6 月 30 日(土) 10 時 00 分-17 時 00 分
2. 場所:平塚市青少年会館 会合室 A、会合室 C、和室
3. 出席者:平塚市青少年相談室 5 名、NPO 法人ぜんしん 3 名
4. 参加人数:8 名
5. 主な活動報告:青少年相談室管轄の 3 部屋を用意し、市の相談員と団体スタッフが、以下の通り、各参加者の相談等に応じた。

1) 相談対応

- ① 市の相談員様からの紹介で 1 名、母親(40 代)が娘(10 代)の相談に来訪。
ぜんしんのスタッフとで面談。娘様は、部活で交友関係のトラブルが起き、不登校に陥ってしまった。くすの木やフリースクールへは色々と訪問して来た。現在は、勉強を学ぶ場所を見つけたものの通うことが出来ていないとのことで、お母様は、「このまま娘の我がままを注意しないで、ほっとくしかないのか?」、「どうやったら勉強に行くのか?」とのご質問等があった。また、娘から「私の好きなことに反応してくれないとつまらない」等の言動があることから、子どもの関心事にしっかりと耳を傾け、母親がこれまでの接し方を少しずつ、改めていくことが大切との助言を行った。
- ② 幼少期から身体的な問題があり、中 3 から不登校となっている娘(10 代)の相談に訪れた母親(50 代)、③ 複雑な家庭環境にあり継続相談を行っている男性(30 代)、④ ゲーム依存の様相が強く、大学には合格したものの学校に通うことが出来ていない息子(10 代)の相談にて訪れた母親(40 代)へ団体スタッフと市の相談員がそれぞれ、相談に応じた。

2) 参加者との意見交換、ゲームコーナーでの対応

午前・午後を通して、カード・テレビゲームを活用し、当事者とスタッフにて交流を深めた。ゲームを通して、ルールを覚えることや協力して遊ぶ方法等を当事者の方が自ら行っており、積極的に他者とコミュニケーションを交わす姿が見られた。

また、当日は、ひきこもりから回復し、就労に至った元当事者の男性が会場に訪れ、現在、就労を目指している若者との交流を深めた。回復し、就労に至った男性とこれから自立を目指す若者が互いの近況報告を交わすことで、良い刺激を受けたものと考えている。

6. 今後の課題

- ① 参加希望者に予約の段階で事前に「市もしくは、元当事者の相談員を希望しているか?」を伺うようにする。それにより、お越し頂いた参加者が会場で戸惑うことなく、相談に臨むことが出来るようにしていきたい。
- ② 今回は、フリースペースを利用している参加者の中には、ゲームや相談で疲れてしまい、身を横にしたいと参加者がいたが、和室利用を進めることを忘れてしまっていた。次回以降、少し、休憩したいと考えている参加者には、和室の利用をお勧めしたい。
- ③ チラシの配布先について(市側からの要望)
今までチラシの配布を行っていなかった「くすの木」等、関連する機関へのチラシの配布を行う。事前にチラシのデータを青少年課に送信し、小・中学校や公民館等へチラシを拡大したポスターを作成し、掲示の依頼を行っていく。
- ④ 新規の参加者を呼び起こし、相談事業につなげたい(市側からの要望)

今回は、相談を希望する参加者よりもフリースペースを利用する参加者が多かった。リピーターだけでなく、新たな参加者を募り、市や団体の相談員による相談件数を増やすことで、1 人でも多くの自立を促せるようにしていきたい。

平成 30 年 6 月 30 日 平塚市協働事業 第 2 回 アンケート集計結果

○ 参加人数:8 名 □ アンケート回収数:8 枚

項目 1 相談会の情報をどちらから知りえましたか(複数回答可)

インターネット	2	20.0%
告知パンフレット	3	30.0%
広報ひらつか	1	10.0%
知り合いからの紹介	2	20.0%
JR 平塚駅掲示ポスター	1	10.0%
行政機関の紹介	1	10.0%
その他	0	0.0%
合計	10	100.0%

項目 2 「相談会」への利用回数をお答えください

初めて	3	30.0%
以前、参加したことがある(回数不確定)	2	20.0%
2~4 回	1	10.0%
5 回以上	2	20.0%
合計	8	100.0%

項目 3 参加前に利用したいと考えていた支援内容はどちらになりますか(複数回答可)

市の相談員による相談	2	15.4%
元当事者(親)による相談	3	23.1%
元当事者(子)による相談	2	15.4%
カードゲーム等のゲームコーナー	4	30.8%
意見交換コーナー	2	15.4%
ミニ・パソコン講座	0	0.0%
その他	0	0.0%
合計	13	100.0%

項目 4 実際に利用された支援内容はどちらになりますか(複数回答可)

市の相談員による相談	2	14.3%
元当事者(親)による相談	3	21.4%
元当事者(子)による相談	2	14.3%
カードゲーム等のゲームコーナー	5	35.7%
意見交換コーナー	2	14.3%
ミニ・パソコン講座	0	0.0%
その他	0	0.0%
合計	14	100.0%

項目 8 このような相談会を今後、希望されますか(複数回答可)

毎月開催	4	44.4%
3 か月に一度	4	44.4%
半年に一度	0	0.0%
1 年に一度	0	0.0%
その他	※ 1	11.1%
合計	9	100.0%

3-1. 本日の参加目的についてお答えください。

子供の不登校とひきこもり状態の理解と対応の仕方に関するお話を伺うため

6. 「ご感想」についてご記入ください。

元当事者の方のお話を初めて伺ったので、少しは気持ちの理解に近付けた気がした

子供の興味あることにもっと関心を持っていこうと思いました

皆でワイワイゲームを楽しんで癒されました。日々を生きる活力を頂きました

同じ悩みを持つ人達と楽しく笑って過ごせたので気持ちが晴れました

いっぱいはなせた、カードゲームをもっとしたかった

集まってワイワイとゲームができて楽しく過ごせた

皆とゲームをやってとても楽しく盛り上がって元気になりました

7.運営や進行への意見についてご記入ください。

とても理解でき参考になりました

細やかな気配りがありがたかったです

リラックスして参加することができました

9.今後の事業への要望

年上(子供)の方の体験などをお聞きしたいです。子供と話してほしいです

以上

不登校・ひきこもり改善・自立支援事業(H30 年・第 3 回)事業報告書

作成日：2018 年 9 月 10 日

更新：2018 年 10 月 14 日

1. 活動名：親子で参加できる自立支援相談会
2. 日時：2018 年 9 月 8 日(土) 10 時 00 分・17 時 00 分
3. 場所：平塚市青少年会館 会合室 A、C、和室
4. 出席者：平塚市青少年相談室 5 名、NPO 法人ぜんしん 6 名
5. 主な活動報告

- 1) 参加者人数

12 名来訪（内訳：相談 6 件、新規来訪件数 4 件）

- 2) 相談対応

- ① 母親と息子（18 歳）が来訪

ぜんしんカウンセラと面談（予約面談）。高校 2 年生から不登校。不登校の理由が同級生に漏れていたことを契機に通っていた高校を中退。通信制の学校に編入した。「お母さんの前で話したくない。」との言葉を受けて、息子とカウンセラとで面談。周囲の常識と違っていることが気になっていたが母親に相談できずにいる等の話を伺う。息子の許可をもらい、息子が話した内容を母親に話した。母親からは、これまで息子に対して厳しく接してきたが気持ちに余裕ができたので、親子の関係を修復したいと考えているとの話があった。

- ② 高校 2 年生の息子の不登校を母親が友人と来訪

ぜんしんカウンセラと面談。友達との会話が合わず、好きなゲームのことを話すことができないこともあり、今の学校に戻りたくない。母親から責められていると感じており反抗的な態度をとっている。まずは息子との関係を回復することを優先した方がよいことなどをお話した。

- ③ 就労相談で来訪した 27 歳女性（保健所からの紹介）

ぜんしんカウンセラと面談。母親が亡くなり、父、兄との関係が悪く独立したい。就職のために電話をかけても上手くいかない。対人的な不安を抱えている。就職のために職業訓練校に通いたいと考えている。家を出たい気持ちが強いが、職業訓練校よりも精神的な不安を解消することが優先される状態との見立て。ぜんしんの定例活動に 1 度来訪している。

- ④ 継続相談の男性（30 代）が来訪。

市の相談員とぜんしんカウンセラとで面談。夏の暑い状況で体調的に厳しく頑張っているが状況を変えずらい。少し涼しくなる秋口から就職活動をしたいと考えているとの話がでていた。

- ⑤ 父親が 36 歳娘の相談に来訪。

市の相談員と面談（予約面談）。父と娘の 2 人で生活しており、娘は 13 年前から引きこもっている。東日本大震災の影響で横浜へ転居。理由あって平塚に転居してきた。これまではしっかりしろと叱咤激励してきたが、最近では本を参考に娘に接し、見守ることを優先している。いろいろと配慮して、娘の神経に触らないようにしている。娘に遠慮して食事していることで父親は痩せてしまった。父親の健康状態を確保するための提案をした。

- ⑥ 中学三年生男児が不登校。不登校に関するヒントが得たいと母親が来訪。

ぜんしんボランティアの元不登校児の母親が面談。中学 2 年生の 6 月頃から不登校。最近では学校に行く支度をするがお腹が下ってしまう。夏休み中も無気力で、会話にならなかった。夏休み明けから学校へ行っていない。高校へ進学したいが、出席日数が足りなくなっている。保健室登校を勧められたが、息子は気が乗らない状態。最近では会話が成立していない。スタッフからは高校進学の際の体験談をお伝えした。

その他、上述した⑥の母親と小学生の頃からの友人に対して、ぜんしんの活動について説明した。子どもが同級生なこともあり、友人親子を周囲から支えたいと考えている。

3) 参加者との意見交換、ゲームコーナーでの対応

午前中は、母親の面談に同行してきた当事者の弟と、相談会に来訪した当事者（20代後半男性）、ボランティアスタッフとともに、テレビゲームを通して遊ぶ。20代の当事者は、小学四年生に負けたことで奮起し、「再戦して勝つことができた。」と楽しそうに話していた。傍らでは、料理をモチーフにしたカードゲームを活用した交流も行われていた。

午後は 14 時から 17 時まで新たに持ち込んだボードゲームをプレイした。来訪者同士はゲーム進行上、交渉したり、心理戦をしかけたりコミュニケーションをとっていた。

6. 今後の課題

① 面談が重複した時の対応

予約なしで訪れた相談者の面談時間が重なることがあった。ビデオゲームの横だったため賑やかで気が散っているようだった。

面談用に会議室を複数押さえることで対応可能。重複した場合は声をかけてもらえれば空室を手配することが可能との回答をいただいた。

② 会議室での飲食

通常活動では好きな時にお菓子等を食べているが、会議室内での飲食禁止のため 1 階の元食堂まで移動しなければならず、休憩時間のコミュニケーションがとりにくい。また、貴重品があるため留守番が必要な状況をお伝えし、会議室で飲み物は持ち込んでよいと許可をいただいた。

③ 広報の実施

今回の開催前に青少年相談室の広報活動として広報ひらつかや市の全施設へチラシを配布した。6 組の新規利用者が訪れ、広報活動の効果がでていように見受けられる。引き続き、早めに広報活動を行いたい。

④ 次年度の委託事業に向け、実施プログラムの見直し

協働事業から委託事業への業務形態が変わることもあり、プログラムの見直しが必要となる。また、居場所のマンネリ化を回避すべく、アナログのカードゲームは新作や話題のものを定期的に購入し、入替えを行っているが、参加者がより、自立に向かってステップアップできるようなコンテンツを用意することが求められる。

⑤ 仮眠ができるスペースのあり方

仮眠も出来るスペース(和室)を用意いただいたが、「ゲームに出来るだけ参加したい為、会議室に留まりたい」と机の上で仮眠をとりはじめてしまう参加者が存在した。仮眠を希望する方と他の参加者の両者が不快にならないような居場所づくりを検討する必要がある。

⑥ 仮眠ができるスペースのあり方

仮眠も出来るスペース(和室)を用意いただいたが、「ゲームに出来るだけ参加したい為、会議室に留まりたい」と机の上で仮眠をとりはじめてしまう参加者が存在した。仮眠を希望する方と他の参加者の両者が不快にならないような居場所づくりを検討する必要がある。次回、参加者が疲れたりした際、会議室で寝ころんで過ごすことが出来るよう「敷き物(体育館で活用しているマット)を青少年課にて用意できる」との回答があり、実物の利用可否をご確認いただくことになった。

7. アンケート結果

○ 相談会の情報をどちらから知りましたか。

インターネット	2	22.2%
告知パンフレット	0	0.0%
広報ひらつか	2	22.2%
知り合いからの紹介	3	33.3%
JR 平塚駅掲示ポスター	0	0.0%
行政機関の紹介	1	11.1%
その他	1	11.1%
合計	5	100.0%

○ 参加回数について

初めて	6	66.7%
以前参加したことがある	0	0.0%
2- 4 回	0	0.0%
5 回以上	3	33.3%
合計	9	100.0%

○ 利用された支援内容はどちらになりますか（未回答、複数回答含む）

	希望していた支援		利用した支援	
市の相談員による相談	2	22.2%	2	18.2%
元当事者（保護者）による相談	0	0.0%	2	18.2%
元当事者（子）による相談	3	33.3%	3	27.3%
カードゲーム等のゲームコーナー	3	33.3%	3	27.3%
意見交換コーナー	1	11.1%	0	0.0%
ミニ・パソコン講座	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	1	9.1%
合計	9	100.0%	11	100.0%

このような相談会を今後、希望されますか。

毎月開催	2	33.3%
3 か月に一度	3	50.0%
半年に一度	0	0.0%
1 年に一度	0	0.0%
その他	1	16.7%
合計	6	100.0%

3- 1.参加目的（自由記入）
ひきこもり
社会復帰、就業についての相談
不登校に関するヒントが得られるかもしれないと思ったため
ゲームを利用してコミュニケーションを深める

6.ご感想
話を聞いてもらった。少しすっきりできました
これからの子供への対応の仕方等のお話を聞いて参考になりました
人と接する練習をしたい
一方的な話ばかりでしたが、本当に気持ちがらくになりました。
初めてのゲームに熱中して楽しめた
ゲームをやって皆で楽しくできて明るい気分になりました
心が少しすっきりした

7.運営や進行への意見
相談によって気持ちや考えの整理がついた
今後も自分なりに考えていく力が出ました

9.今後の事業への要望
もっと多くのひきこもり家族が生きる窓口となれば

以上

不登校・ひきこもり改善・自立支援事業(H30 年・第 4 回)事業報告書

作成日：2018 年 10 月 14 日

更新日：2018 年 11 月 11 日

1. 活動名：若者の進路相談会（高校中退者等を含む）
2. 日時：2018 年 10 月 13 日(土) 10 時 00 分・17 時 00 分
3. 場所：平塚市青少年会館 会合室 A、B、C、和室
4. 出席者：平塚市青少年相談室 5 名、NPO 法人ぜんしん 5 名
5. 主な活動報告
 - 1) 参加者人数
6 名来訪、（内訳：相談 3 件）
 - 2) 相談対応
 - 継続相談の男性（30 代）が来訪。
市の相談員とぜんしんカウンセラとで面談。家族問題（弟と父との関係）を抱えている。家にいるとイライラする。コミュニケーション講座等に参加したいが、2 日連続の講座は体力的に厳しい。体力をつけるために駅間の景色を眺めつつ楽しみながら歩いている。といったこれまでにない発言があった。また、職業安定所の講座は出席の縛りが厳しく、以前体調を崩したことがあり不安で受講出来ない。就労相談や講座を受けられる他機関（藤沢）を紹介。また、身体の問題について平塚市保健福祉事務所へ取り次ぐことを提案し、了承を得た。
 - 父親が 36 歳娘の相談に来訪。（9 月に続き 2 回目）
市の相談員と面談（予約面談）。父と娘の 2 人で生活。ひきこもりの子を持つ保護者が集まる場所を知りたいとの相談を受け、ぜんしんからは、2 団体を紹介（すばる様、かたつむり様）した。娘から「自分のことに構わないで欲しい」といった内容の手紙をもらい、父親としては娘に拒絶されたように感じている。子の要望を尊重し、挨拶の言葉がけをする程度に留めて見守るのが良いとの助言をしている。
 - 就労相談で来訪した 27 歳女性（9 月に続き 2 回目）
ぜんしんカウンセラと面談。神奈川県社会福祉協議会の紹介で就労支援センターと連絡がとれたことを報告してくれた。コミュニケーションに課題を感じており、人と接する機会を増やしたいと意欲的であるが、「他人との目の合わせ方がわからない」、「人と接することが苦痛」、「そうは言っていられない」、「自分で対処できるかわからない」といった言葉も出ている。面談後は、居場所でスタッフと雑談を希望し、「自立に向けて生活に関わる費用について一般的にどのくらいの費用が掛かるものなのか？」といった質問があった。
 - 3) 参加者との意見交換、ゲームコーナーでの対応
面談を終了した相談者から雑談を希望され、ボランティアスタッフが応じた。（上記 2- ①）
ゲームコーナーでは、新規のゲームを 2 つ導入した。パソコンを使ったコミュニケーションゲームを参加者とボランティアスタッフとの 2 人組で実施。バーチャルな世界で起きている災難に対し、直面する災難を処理する担当者とオペレーター役に分かれ、問題解決に挑む内容。処理担当は問題の状況を的確にオペレーター役に伝え、オペレーター役は災難へ対処するガイドブックで調べた対応方法を考えながら答えていく。相互コミュニケーションをとり、楽しみながら会話の訓練をすることが出来たと考えている。もうひとつは、新作のデジタルゲーム（パー

ティーゲーム) を参加者、スタッフとで実施する。参加者からは「1 人でやってもつまらなかったが、みんなでプレイできて楽しかった。」との感想があった。外に出て、居場所で他者に触れ合うことによって初めて経験できるものを参加者たちは感じ取っているのではなかろうか。

6. 今後の課題

① 面談が重複した時の対応

同時の複数面談を想定し会合室 B を 2 組の面談に対応できるように室内をホワイトボードで仕切った。1 室を 2 組の面談で利用することは、声が筒抜けとなるためプライバシー保護の観点で利用はできないとの見解で一致した。

② 仮眠ができるスペースのあり方

活動する会合室内にマットを 1 枚敷いて対応した。想定する利用者は 1 名、硬さは問題ないが、大きさ的にもう一枚あってもよいと思われる。また、ホワイトボードをマットと活動スペースとの仕切りに設置しているが、ボード下に目張りをつけることを団体より提案し、紙等を貼って対応すること検討いただくとの回答を青少年課様より得た。

③ 休憩（昼休み）のとりかた

会合室は施錠できるので一斉に昼休みをとることも可能との提案をいただく。現在は活動時間として昼休みの時間帯を明記しておらず 12 時から 13 時の間にも来談される方がいる可能性があり（過去の実施状況を振り返ると昼食時に訪れる参加者も存在している）、スタッフは交代制で昼食をとっている。今後は、休憩時間を告知するなど含め、運営方法や体制を検討する。

④ 告知ポスターへの要望

告知用のポスターやチラシの配布時期が開催、1 週間前の提供では遅いとのこと指摘をいただく。また、今回、10 代の親子、新規の参加者がなかったが、青少年課としてターゲットにしている若年者への訴求を強化したい。身体を動かしたい新規の利用者を増やせるような言葉とイメージ写真を追加してほしいとの要望をいただく。これまでの相談会だけではなく、身体を動かしたい人にも利用してもらえるように内容に見直す。

⑤ 参加者の記録

本事業の成果物として、「継続的に本事業へ参加しているリピーターの成長記録を提出して欲しい」との要望をいただく。2 から 3 名を対象に自立に向けた変化の過程（リーダーシップがとれるようになった、他の講座等への参加や外出が増えたなど）を記録したものを想定、作成し提出する。

7. アンケート結果

○ 相談会の情報をどちらから知りましたか

インターネット	1	20.0%
告知パンフレット	0	0.0%
広報ひらつか	1	20.0%
知り合いからの紹介	2	40.0%
JR 平塚駅掲示ポスター	0	0.0%
行政機関の紹介	0	0.0%
その他	1	20.0%
合計	5	100.0%

○ 参加回数について

初めて	0	0.0%
以前参加したことがある	1	20.0%
2- 4 回	1	20.0%
5 回以上	3	60.0%
合計	5	100.0%

○ 利用された支援内容はどちらになりますか (未回答、複数回答含む)

	希望していた支援		利用した支援	
市の相談員による相談	2	33.3%	2	28.6%
元当事者 (保護者) による相談	0	0.0%	0	0.0%
元当事者 (子) による相談	2	33.3%	2	28.6%
カードゲーム等のゲームコーナー	2	33.3%	3	42.9%
意見交換コーナー	0	0.0%	0	0.0%
ミニ・パソコン講座	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%
合計	6	100.0%	7	100.0%

○ このような相談会を今後、希望されますか

毎月開催	0	0.0%
3か月に一度	2	66.7%
半年に一度	0	0.0%
1年に一度	0	0.0%
その他	1	33.3%
合計	3	100.0%

3- 1.参加目的 (自由記入)
人との接し方についての相談、生活面の質問
情報収集
外に出て人と交流する

6.ご感想
今回の参加は見送ろうと思っていたが、来てよかった
親として安心する気持ちが少しずつ出ました。 まだまだ時間がかかるけど長く続けたいです
個人で買ったゲームを一人でやった時はあまり面白くなかったけど、ここに持ってきて皆と一緒にやったら楽しかったので良かったです。
新たなゲームで白熱して楽しむことができた

7.運営や進行への意見
今後の課題について前向きな気持ちになれた

9.今後の事業への要望
今のところなし

以上

不登校・ひきこもり改善・自立支援事業(H30 年・第 5 回)事業報告書

作成日：2018 年 12 月 9 日

1. 活動名：若者の進路相談会（高校中退者等を含む）& 体育館で体を動かそう
2. 日 時：2018 年 11 月 17 日(土) 10 時 00 分-17 時 00 分
3. 場 所：平塚市青少年会館 会合室 A、B、C、和室、体育館
4. 出席者：平塚市青少年相談室 4 名、NPO 法人ぜんしん 5 名
5. 主な活動報告
 - 1) 参加者人数
11 名来訪、（内訳：相談 4 件 [新規・継続それぞれ 2 件ずつ]、見学 1 件、体育館利用：6 名）
 - 2) 相談対応
 - 継続相談の男性（30 代）が来訪。
市の相談員とぜんしんカウンセラーとで面談。家族問題（弟と父との関係）を抱えている。コミュニケーション講座を受講することで、自分のことを話すことができるようになってきていると感じている。「家族関係や家庭内の環境等の問題が影響して自分は自立できない」と語っている。父親が不在にしている期間が 2 週間あったが、邪魔されずに掃除ができたことがよかったとの発言があった。前回紹介した平塚保健所での保健師の方との面談では、「話を聞いてもらえたが、自身にとって有益なアドバイスは少なかった」とのコメントがあった。その後、紹介された相談機関に電話はしていない。その理由は、家族に聞かれないたくないという発言があった。
 - 母親が祖母と来訪、娘（16 歳）に関する相談。（1 回目）
ぜんしんカウンセラーと面談。（予約面談）。中学 2 年生の夏頃から不登校になり、高校への進学面談以降、通えなくなった。初対面の人と接することが苦手で、一人では外出ができない。家族以外と接する機会を求めているようで、一人で出かけていける先や、外に出る機会を探している。家にいるときは自室にこもらず、居間で過ごしているがスマホをずっといじっている。また、自分の意志で習いごとを始め、習い事には出かけられているが、一人ではつまらないので、祖母と一緒にやろうと誘っている。「楽譜が読みづらい」というので、メガネを進めたら、「他の人が見えすぎるから嫌だ」と言われた。ぜんしんの定例活動（居場所）、協働事業の相談会（本事業）の紹介をし、段階的に外出する機会の創出等をご提案した。
 - 父母が来談、息子（17 歳）に関する相談（1 回目）
ぜんしんカウンセラーと面談。（予約面談）。中学 2 年生の 2 月ごろから自室に引きこもるようになった。本人は原因を言わない。中学 3 年から復学し、高校進学したが、1 年生の 9 月に「嫌だ」と言い出した。勉強についていけず、友達付き合いができない。両親との会話がなくなり自室にこもるようになった。2018 年 1 月に高校を辞めさせてくれと言い出し、退学した。両親としては、息子の現状を受け止めており、親子関係は良好。今後どのような接し方、声掛けをしたらいいのか悩んでいた為、親子の会話等について当事者の立場を活かした助言を行った。
 - 就労相談で来訪した 27 歳女性（3 回目）
ぜんしんカウンセラーと面談。現在、コミュニケーション講座を受講している。職業訓練を受ける準備のため、社会福祉協議会の方と自立支援施設の見学へ出かけるとの報告があった。以前は肥満体系だった。摂食障害を自覚しており人に会う前に過食の発作がでてしまう。考え方が極端な自分の性格と健康的な食生活が自分の課題と認識しており、「社会常識や振る舞いを普通にしたい」と強く願っている気持ちを緩め、健康的な食事をとることが次の課題だと話し

てくれた。自立に向け、湧き上がる疑問点へぜんしんカウンセラーが助言を行ったところ、腑に落ちた様子を見せた。悩みは抱えているものの、相談を重ねるごとに表情は穏やかになって来ており、また、発言内容等から自立に向けた自信を窺うことができる。

◎ その他、見学者男性、年齢不明

受付に来られて「1F のポスターを見てやって来た。何をやっているのか？」をスタッフに質問をされたため、当団体の説明（ゲームを中心とした居場所開催など活動内容）をした。「自分はゲームより旅行が好き」「土曜日は仕事がある」「自分は障がい者で手帳を持っている」と、ご自身の話をされ、活動には加わらずにお帰りになられた。

3) 参加者との意見交換、ゲームコーナーでの対応

主に午前中はフリースペースでの活動となった。新規のゲームを 2 つ実施。参加者が持参したパーティーゲームをスタッフも交えてプレイしていた。内容としては、お互いに声を掛け合いながら宝ものを探すゲームで、プレイヤー同士が連携することが求められる。もう一つは、ドッチボールゲームをアレンジした内容でプレイヤーは生き残りを目指す。どちらも意思の疎通を図りつつ進めるため、会話の訓練にもなっている。

また、ゲーム依存で通学がない高校（インターネット高校）へ通っている高校性が最新の音楽ゲームを利用しに、活動へ参加してきた。以前と比べて他人の視線を気にすることなく、ひとしきりゲームをしていた。

午後は体育館へ移動し、バドミントンと卓球を行っていた。午後から参加された方を含めて 6 名が身体を動かすことを楽しんでいた。

バドミントンを実施する際に、学生時代に部活動での経験者（参加者とスタッフ）が、未経験者に対してラリーのやり方をレクチャーしてから、ゲーム形式でプレイしていた。

卓球も部活動での経験者（参加者）が、自らのラケットを持参して参加していた。対戦するだけでなく、的あてを競うゲームを編み出したりと、存分に楽しんでいたようだ。「久しぶりに身体を動かして、疲れたけど楽しかった」との感想が多かった。

6. その他関連事項

◎ 次回、1 月 19 日（平成 30 年度・第 6 回目）実施プログラムについて

体育館を使い「体を動かそう」という企画を継続することを打診。体育館の予約をお願いした。また、当日のプログラムは、進路相談会、コミュニケーションゲームを中心として、実施することを提案。平塚市側の意向を確認の上、最終決定する。体育館での活動を盛り込む場合は、上履き持参をポスターとパンフレットへ記載する。

◎ 市の職員の参加について

体育館でのバドミントンなどの活動やゲームコーナーへ普段と異なるメンバーが参加することは可能か？との質問をいただいた。現在、継続して利用している参加者を含め、市の職員が参加したとしても抵抗を示す者は殆どいないと思われる。ぜんしんとしてはいつもと異なる方が参加することで、対人的な刺激になると考えていると回答。次回、体育館を利用する場合は、お声かけして一緒に参加いただくこととした。

◎ 次回、利用する会議室について

仮眠用の和室（小）、相談用の会議室 B（午前中）、和室（大）、ゲーム等の活動用として会議室 C を予約済み。「体を動かそう」を開催できるように体育館を追加で予約いただいた。

以上

7. アンケート結果

○ 相談会の情報をどちらから知りましたか

インターネット	4	36.4%
告知パンフレット	0	0.0%
広報ひらつか	0	0.0%
知り合いからの紹介	5	45.5%
JR 平塚駅掲示ポスター	0	0.0%
行政機関の紹介	0	0.0%
その他	2	18.2%
合計	11	100.0%

○ 参加回数について

初めて	5	50.0%
以前参加したことがある	1	10.0%
2- 4 回	1	10.0%
5 回以上	3	30.0%
合計	10	100.0%

○ 利用された支援内容はどちらになりますか (未回答、複数回答含む)

	希望していた支援		利用した支援	
市の相談員による相談	3	17.6%	1	8.3%
元当事者 (保護者) による相談	2	11.8%	0	0.0%
元当事者 (子) による相談	1	5.9%	5	41.7%
カードゲーム等のゲームコーナー	4	23.5%	3	25.0%
意見交換コーナー	0	0.0%	0	0.0%
ミニ・パソコン講座	2	11.8%	0	0.0%
体育館で体を動かす	5	29.4%	3	25.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%
合計	17	100.0%	12	100.0%

※ 「利用した支援」については、参加者の回答漏れ等により、実参加人数と異なるものがあります。

○ このような相談会を今後、希望されますか

毎月開催	6	60.0%
3 か月に一度	3	30.0%
半年に一度	0	0.0%
1 年に一度	0	0.0%
その他	1	10.0%
合計	10	100.0%

3-1.参加目的(自由記入)

本人の外に出られる場所を作りたい。社会に出るためにはどうしたらよいかの相談
孫のこれからについて対応
就労、人との接し方等の相談

6.ご感想
バトミントンで体力を使い、卓球ではつかれました。
久しぶりにちゃんと体を動かして汗をかいたのでつかれたけど、楽しかったです。
安心感、これからの孫への対応にも参考になりました。
ゲームって悪いイメージがありましたが、子供の好きなものを利用して、社会とつながることができればいいと思いました。
楽しかった。
子供の様子や親の気持ちを素直に話せたことに安心できた。
今度の子供に対する接し方や声掛け等のヒントをもらいました。
気持ちや考えの整理ができ、今後のやる気になった。
引きこもりがちになると運動することもほとんどなくなるので、体を動かして汗を流すのは久しぶりだったが、楽しんで取り組むことができた。

7.運営や進行への意見
参加目的の内容を相談させていただきました。アドバイスいただきました。
今後のご指導いただき、心強く感じました。
支援内容の説明がとても分かりやすかった。
支援内容が段階的にわかりやすかったです。
来てよかったと思えた。

9.今後の事業への要望
就労体験
体験できるもの、小物づくりや運動等

以上

不登校・ひきこもり改善・自立支援事業(H30 年・第 6 回)事業報告書

作成日：2019 年 2 月 11 日

1. 活動名：若者の進路相談会（高校中退者等を含む）& 体育館で体を動かそう
2. 日時：2019 年 1 月 19 日(土) 10 時 00 分-17 時 00 分
3. 場所：平塚市青少年会館 会合室 A、C、和室、体育館
4. 出席者：平塚市青少年相談室 5 名、NPO 法人ぜんしん 6 名
5. 主な活動報告

1) 参加者人数

18 名来訪、（内訳：相談 6 件）

*相談対象が 10 代もしくは来訪者が 10 代だったケースは 6 名

2) 相談対応

◎ 保護者（母）が来訪。男子（16 歳）に関する相談。

市の相談員とぜんしんのカウンセラーとで面談。中学 1 年時にいじめに合い、不登校になるも支援級等を経て卒業する。市外の高校へ進むも進学クラスで頑張り過ぎて、通学できなくなってしまった。「先生から何か嫌なことを言われるんじゃないか」等と気が重くなり、学校へ通えていない状況。市の相談員らで「今は嫌なことを忘れてのんびりと自分を見つめる等して過ごして欲しい」等の助言を行った。

◎ 保護者（母）が来訪。男子（28 歳）に関する相談。

市の相談員とぜんしんのカウンセラーとで面談。母が 40 歳の時に養子として迎え入れた子の相談。病弱な状態だったが、高校を卒業後、大学には殆ど通わず、5 年間で卒業できなかった。その後、ひきこもりにあり、ゲームをして 1 日中、過ごしている。お母様は今まで、子どもに対し、否定的な発言が多く、褒めて来なかった等、相談の中で問題点を整理されていた。市の相談員と団体カウンセラーにて「母の色合いを控え目にして子の色を出させるように過ごすこと」等を提案させて頂いた。

◎ 保護者（ご夫妻）が来訪。男子（13 歳）に関する相談。

ぜんしんのカウンセラーと面談。中学 1 年生だが 10 月から学校に行けず、スマホで動画を見る等デジタル機器から離れられない状態にある。1 日 10 時間以上、ゲームやスマホに触れているが、最近、「暇だ！暇だ！どうしてこうなったんだろう」等と話しているという。本人が、団体のゲームを活用した活動に興味を示し、「こういうの(大画面でゲーム)を待ってたんだ！」と語っていることから、ご両親に対し、団体の活動を紹介した後、日常生活での会話の方法等の助言を行った。

◎ 自立を目指す男性（30 代）に関する相談。※ 継続相談

市の相談員とぜんしんのカウンセラーとで面談。家族問題（弟と父との関係）や身体的な問題を抱えている。相談の回数を重ねるに連れ、相談員らへ不満や怒りをぶつけることが少なくなって来ている。相談員から「今後の目標」を尋ねると「独立したいと思うこと」や「ハローワークへ行きたいけど体の問題で 1 人でいる時に倒れるのが怖い」等と打ち明けてくれた。ただ、「ぜんしんのカウンセラー（柳川）がいれば図書館の支援プログラムも平気（参加できそう）」との発言もあり、引き続き、関連する支援プログラム等を活用しながら、自立への方法を探っていくことを約束した。

◎ 保護者（母）が来訪。男子（13 歳）に関する相談。

ぜんしんのカウンセラーと面談。元々、病弱で中学から不登校が始まった。現在、支援級に在籍していて、学校や先生に対する不満はない模様。現在、外食や買い物においては外へ出ることが出来るが、アニメやゲームに熱中していて 26 時頃まで起きており、目覚めるのは 14,5 時にあるという。ボーリングや新聞社のイベントにも参加した経験があり、お母様は、「本日の事業への参加を促すことは本人にとって刺激になっていそうだ！」等と話されたことから団体の支援事業等を紹介した。

◎ 保護者（祖母）が来訪。女子（16 歳）に関する相談。

ぜんしんのカウンセラーと面談。本人は、通信制の高校に通いながらアルバイトを続けようと努力している。アルバイトを始めた当初、ストレスが爆発し、母親とぶつかり、初めて自分と親の部屋をめちゃくちゃにしてしまったが、今は穏やかになって来たという。何か問題があるとスマホや漫画に逃げてしまう。スクーリングにも通えておらず、3 月に学校へ通えないと 2 年生に進級できない状況にある。本人は、「大学に行きたい！」と話していることから、カウンセラーから保護者へ「ご家族が娘さんの気持ちを肯定的に受け止めてあげて欲しいことや自立に向け、多様な選択肢があること」等の助言を当事者ならではの挫折や経験談を交えながら行った。

3) 参加者との意見交換、ゲームコーナーでの対応

午前中のゲームコーナーでは、初めて参加した 10 代前半の参加者と 20 代の参加者とでデジタルゲームを熱心にプレイしていた。アナログゲームは新たに導入したカードゲームを始める際に参加者がルールを理解し、ほかの参加者へ説明をしながら進めていた。また、いつも相談が終わると帰宅する方が自ら体育館で体を動かしたいと要望され、スタッフと参加者数名が体育館へ移動しバトミントンを行っていた。

午後からは、体育館を中心に活動を実施。親子で参加された方や市の職員の方にも参加いただくなど、これまで以上に参加人数が多かった。バトミントンの順番を待っている間に顔見知りの参加者同士で近況を話している様子が見られ、刺激を受けたようだった。

ゲームコーナーでは、初めて 1 人で参加した 10 代後半の参加者とスタッフとでアナログゲームを実施。最初緊張していたが、少しずつ慣れてゲームの感想を話してくれるようになった。

また、何度か参加している方から近況の報告を受けている。

6. その他関連事項

◎ 会合室と和室の利用について

今回も、和室を利用することなく終わっている。スタッフの目が届かないこともあり、活動する部屋は別れないほうが望ましい。また、参加された方が多かったため会合室 C に 15 名程度が在室したことがあった。室内の一角にマットを引いていることもあり、テーブルの周囲に人が密集していて見えるため初めて参加した方にとっては入りづらい状況だった。テーブルレイアウトは再考の余地がある。

◎ 体育館の利用について

体を動かすことができるため参加したという親子もおおり、「体を動かしたい」という要望があることが確認できた。直接体育館へ来られた方もいらっしやったので、一度会合室へ寄っていたかどうか、体育館でも受付の対応ができるよう改善を検討したい。また、上履きを持参いただくことはパンフレットやポスターに明記することをもれなく実施したい。

③ 2018 年度の総括

自立者数は、2 名（就労）であった。

市の相談員、職員の皆さんとの良好な関係が構築できたと考えている。また、従来から団体の強みであるゲーム（デジタル、アナログ）に加え、体育館の利用（体を動かそう）といった提供できるコンテンツが増やすことができた。アナログ、デジタルともにゲーム類を導入する際は、コミュニケーションをとりながら進めることができるものを選定するなどして、常に改善してきている。

④ 市からのフィードバック

- ・ どんなゲームがあるかという問い合わせがきていた。答えられるように事前に情報共有いただきたい。
- ・ 体育館の利用は人気があるため予約は早めに日付を決める必要がある。予約手配は 3 か月先であれば予約可なので、それをめどに日程を決めてほしい。また、広報するにも日程決めは早いほうがよい。
- ・ 今回のように常に 15 名程度の参加者があることが望ましい。バトミントンだと見学者が増えるので、当事者同士だと交代の声掛けができないことがあるように見受けられた。ゲーム性を持たせて運用していくことなど改善を期待している。
- ・ 次につながるような対応を心がけて、何ができるか？を工夫してきた。来年度につながることを期待している。外にでるといふきっかけになっていけばよい。また、ケガをする方もいなくて、楽しそうに参加していた。一步一步前進することができればよいと考えている。

7. アンケート結果

○ 相談会の情報をどちらから知りましたか

インターネット	2	13.3%
告知パンフレット	7	46.7%
広報ひらつか	1	6.7%
知り合いからの紹介	2	13.3%
JR 平塚駅掲示ポスター	0	0.0%
行政機関の紹介	1	6.7%
その他	2	13.3%
合計	15	100.0%

○ 参加回数について

初めて	6	42.9%
以前参加したことがある	1	7.1%
2- 4 回	4	28.6%
5 回以上	3	21.4%
合計	14	100.0%

○ 利用された支援内容はどちらになりますか（未回答、複数回答含む）

	希望していた支援		利用した支援	
市の相談員による相談	4	16.0%	3	12.0%
元当事者（保護者）による相談	2	8.0%	0	0.0%
元当事者（子）による相談	1	4.0%	6	24.0%
カードゲーム等のゲームコーナー	7	28.0%	6	24.0%
意見交換コーナー	1	4.0%	4	16.0%
ミニ・パソコン講座	3	12.0%	0	0.0%
体育館で体を動かす	7	28.0%	6	24.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%
合計	25	100.0%	25	100.0%

○このような相談会を今後、希望されますか

毎月開催	7	53.8%
3か月に一度	5	38.5%
半年に一度	0	0.0%
1年に一度	0	0.0%
その他	1	7.7%
合計	13	100.0%

3-1.参加目的(自由記入)
子どもの自立
自立のための相談、近況報告
孫の他の人との交流
不登校の子供にコミュニケーションの機会を与えたかった
息子を第三者と交流させたいから

6.ご感想
子供も体が動かして少し気分がよくなったのではないのでしょうか
今後も自立に向けてがんばりたい
体を動かす方に結構参加者が多く特に盛り上がっていて楽しむことができた。
気持ちが晴れました
対応の仕方が少しわかりました。家のものとも話し合いたいと思います。
話を聞いて頂けて嬉しく思いました
子供の好きなこと(ゲーム、体を動かす)をきっかけとして、外に出て人と交流するきっかけができた。今後も継続して利用していきたい
息子がどれくらい滞在できるか、効果はあるのか不安でしたが、理事省都の面談中にスタッフの方たちと体育館へ移動し体を動かしている様子を見て嬉しかったです。
親の気持ちを出す場ができて良かったです。
心がやわらかくなりました

7.運営や進行への意見
息子の気持ちをご配慮して頂き感謝しています。
皆さんのサポートのおかげで子供も楽しんでいた様子でした。少しずつ外の世界との交流を増やしていきたいと考えています。
飛び入りにも関わらず空き時間で面談をしていただきありがとうございました。体育館で体を動かせるというプログラムに魅かれました。
スムーズにお話出来て良かったです

9.今後の事業への要望
—

以上

平成30年度実施協働事業 決算報告書

	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収 入	市の支出	356,100	356,100	0	
	団体の支出	6,480	8,792	2,312	
	事業収入	0	0	0	参加費は徴収しない
	収入合計	A 362,580	B 364,892	B-A 2,312	
② 支 出	謝金	255,000 (255,000)	257,100 (257,100)	2,100	総括責任者(産業カウンセラー):7.5H+1.5H×6日×1人×1,100円 同責任者の講座プログラムや資料等の作成・準備および広報活動費:5H×15日×1人×1,100円 元当事者スタッフ:7.5H+1.5H×16人(6日)×800円
	事務用品費	6,000 (6,000)	20,134 (17,081)	14,134	居場所用備品:2,742円、文房具類:6,711円、遊具類:10,681円 ※増額理由:プログラムに要する新たな遊具等を調達した為
	印刷製本費	43,380 (43,380)	39,874 (39,874)	△3,506	告知パンフレット/A4カラー:1,000枚×6回:17,604円 ポスター/A1カラー×11枚:22,270円
	旅費・交通費	22,320 (22,320)	8,580 (8,580)	△13,740	元当事者スタッフの交通費:1,040円×1、860円×2、480円×6、380円×3、360円×5 ※減額理由:近隣在住のスタッフが多かった為
	通信運搬費	29,400 (29,400)	33,465 (33,465)	4,065	告知パンフレットの郵便代205円×97枚、140円×97枚 ※増額理由:郵送物の量を増やしたことにより、重量が増加した為
	食糧費	6,480 (0)	5,739 (0)	△741	参加者に提供するお茶菓子代 ※団体の会計より支出
		()	()		
	支出合計	C 362,580 (356,100)	D 364,892 (356,100)	D-C 2,312	
③	収支決算額 B 364,892 円 - D 364,892 円 = 0 円				【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	特定非営利活動法人ぜんしん	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	不登校・ひきこもり改善・自立支援事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	不登校やひきこもりに悩む親子を対象に団体が得意とするゲーム等を切り口とする手法を用いて元当事者親子の姉妹と市の相談員がフリースペースを設け、挫折や回復の体験談や支援機関の専門情報を提供する等し、彼らの状況改善・自立を支援する事業目的を共有することが出来た。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	4	当初、掲げた計画通り、団体と市による適正な役割分担のもとに事業は実施された。 青少年会館の特性を活かし、体育館等を優先的に確保いただき、身体を動かすイベントを新たに実施することが出来たことは協働事業のメリットといえる。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	回数は減少したが、事前の準備段階から、団体スタッフと市担当職員にて参加者情報の共有等を双方で確認した上で事業に臨むことが出来た。事業終了後に双方で振り返りの時間を設け、今後の事業展開で要する改善点等の情報共有を図ることが出来た。報告書等の作成遅れは団体の課題。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	団体と市は、互いに対等で双方の立場を尊重し、良好な協力関係を維持しながら事業を実施できた。 双方が抱える問題点等については、互いが対等な立場で、解決策を考え、事業に反映することが出来た。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	団体が単独で事業を実施した場合は、より多くの市民へ参加を募るには限界がある。本事業では、「広報ひらつか」等で広範な周知協力を経たことで、想定以上の市民へ支援の手を差し伸べることが出来た。更に、市と協働したことにより団体の支援活動の信頼性が高まったと考えている。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	参加した親子の問題改善、自立を支援する目的は、別紙のアンケートにあるように参加者のご意見から達成されたと考えている。また、目標として掲げた、「成果目標値（参加人数 48 名に対し、実参加人数合計 63 名）」も目標を上回り、達成することが出来た。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	5	想定した予算の中で、事業を実施したが、目標を上回る親子が参加したことに加え、別紙のアンケート回答にある参加者のコメントからも満足度は高いことから、費用に見合うサービスは十二分に提供できたと考えている。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	5	別紙『アンケート』では、「皆とゲームをやってとても楽しく盛り上がり元気になりました」、「同じ悩みを持つ人達と楽しく笑って過ごせたので気持ちが晴れました」、「今後のご指導いただき、心強く感じました」等の回答を頂き、受益対象者から高い評価を頂けた。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	市内にある既存の行政部門や関連する市民活動団体等で悩みの解決策を見出せない当事者親子の問題改善、自立(回復)へ向けたきっかけを提供できた。
団体のメリット	活動スペースの確保だけでなく、行政による広範な周知協力を得られた。また、協働事業の受託団体として信頼度が高まり、活動がしやすくなった。
市のメリット	市内諸機関で解決策を得られない相談者へワンストップで、支援の手を差し伸べることが出来、また、元当事者による挫折や回復談等の有益な支援情報を得られた。

(4) その他、課題やその改善方法など

今後の共催事業にて参加者が増えた場合等の対応策については、以下を検討している。
 主として団体の課題：①人員の確保(ボランティアを含め)
 ②パンフレット等を活用した告知を早めに行う

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（提案型 提案型以外）
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他（委託事業ではなく、共催事業として双方で実施予定）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

- ・ 本事業で市の担当職員と共有した支援情報を団体の定例活動でも活用していく
- ・ 継続して市担当職員と連携し、当団体の定例活動等へ当事者を紹介いただく等して、財源を確保しながら支援活動を継続していく
- ・ 市と共催し、体育館での企画を盛り込んだ居場所事業を継続して実施していく

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	健康・こども部 青少年課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	不登校・ひきこもり改善・自立支援事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	不登校・ひきこもりの悩みを抱えた子どもと保護者にフリースペースを市の施設内に設け、NPO法人の元当事者と市の青少年相談員が協働して、子ども達とコミュニケーションを図りながら、挫折・回復の体験談を交えたアドバイス等の提供による改善・自立支援という目的を共有した。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	役割分担は適正であった。今年度より青少年会館で開催したことにより、様々な部屋の確保を行うことができた。それにより、身体を動かすイベントを新たに実施することができた。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	4	昨年度に比べ担当課職員とNPO法人スタッフによる事前ミーティングの時間は減少したが、終了後の反省会では、次回への改善点について十分に話し合うことができた。アンケートの結果等の報告が遅い時があった為、次回に十分に活かすことができなかつたことが課題である。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	4	担当課とNPO法人ときちんとした役割分担の基に、事業を実施することができた。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	双方の得意分野・強みを活かすことができた。青少年相談職員の率直な意見・感想として、NPO法人の元当事者の実体験に基づくアドバイスや寄り添う言葉は現に悩みを抱える当事者の心に深く響くものであり、今後の相談スキル向上に反映できる貴重な情報となった。

評価の流れ **A : 「自己」評価シート** → B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	全6回を合わせた参加者数は、目標を上回り、別紙アンケート意見にもあるように、参加者から肯定意見・高い評価を多くいただいた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	5	計画した予算範囲内で、目標を上回った参加者があり、アンケート結果からも参加者の満足度は高い。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 別紙アンケートのとおり、参加者の満足度が高く、受益対象者から概ね、高い評価を頂けた。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	市内にある既存の行政機関や民間活動団体だけでは悩みの解決策を見出せなかった当事者親子の自立(回復)へ向けての改善の一步となった。
団体のメリット	活動スペースの確保だけでなく、行政の広範な広報協力を得られた。また、市との協働事業となることで団体への信頼度が高まり、活動しやすくなった。
市のメリット	市内諸機関で解決策を得られない相談者へワンストップで、支援の手を差し伸べられ、元当事者による挫折・回復経験談等の貴重な支援情報を得られた。

(4) その他、課題やその改善方法など

今後、参加者が増加した場合の対応の検討
a) 主として団体側課題：人員の確保(ボランティアを含め)

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (提案型 提案型以外) 休止または終了
 行政が単独で実施 団体が単独で実施
 その他 (委託事業ではなく、共催事業として双方で実施予定)

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

- ・ 団体と共有した支援情報を相談事業で活用していく。
- ・ 団体の活動への支援として活動の場の提供を行っていく。
- ・ 最終目標として、当事者の就学・就労等の社会復帰・自立への支援策を協力して模索する。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	特定非営利活動法人 ぜんしん	担当課名	健康・こども部 青少年課
事 業 名	不登校・ひきこもり改善・自立支援事業		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

事業実施に向け、事前準備や事後の振り返り等において市の担当職員と団体スタッフが時間を割いて、意見交換を行った。双方で「協議」を重ね、「目的共有」、「役割分担」について、共通の認識を持ちながら事業に取り組むことが出来た。

市の担当職員と団体スタッフは、予定していた役割分担のもとに互いに対等で双方の立場を尊重し、良好な協力関係を維持しながら事業を実施できた。「対等な立場」で快く事業を展開することが出来た。

「相互評価や波及効果」については、市と団体が互いの強みを活用できたことに加え、新たな支援メニューとして多くの市民にアピールできたこと等から「波及効果」は高いと考えている。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

「目的・目標の達成」については、「成果目標値と定めた参加人数 48 名に対し、実参加人数が 63 名」と上回り、また、別紙アンケート回答にもあるように、参加者から肯定意見や高い評価を多く頂けたことから目的・目標は達成されたと考えている。

「費用対効果」については、計画した予算範囲内で事業を実施したが、目標を上回る人数の親子が参加したことに加え、別紙のアンケート回答にある参加者のコメントからも満足度は高いことから、費用に見合うサービスは十二分に提供できたと見ている。

尚、本年度の自立者数は、2 名(就労)となっている。

「受益者サービス」については、別紙アンケートの通り、参加者の満足度が高く、本事業を「毎月、開催して欲しい」等の声もあり、受益対象者から概ね、高い評価を頂けたと判断している。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

平成30年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

特定非営利活動法人	
団体名	湘南NPOサポートセンター
団体代表者	坂田 美保子 印
事業担当課名	平塚市市民部協働推進課
事業担当課長	曾我 一章 印

平成30年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	ひらつか市民活動センターの協働運営事業		
事業開始年度	平成 29年～	提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	9,962,218 円	内 訳	市の支出 9,846,610 円 ----- 団体の支出等 115,608 円
事業の概要	<p>ひらつか市民活動センターの3年間の段階的民営化の2年目として、初年度の相談コーディネート機能の強化の継続と、主に情報発信機能、研修機能の強化を目標として団体支援機能の強化を図った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 多様なネットワークを活用し、団体のニーズに即した柔軟な相談対応 団体活動に必要な情報収集と分析及び発信 市民活動センターの事業企画運営、窓口対応（6名配置） 団体スタッフと、市スタッフ、協働推進課職員と共に日々相談・情報交換しながらセンター運営に努めた。 		
具体的な実施内容	<ol style="list-style-type: none"> センター窓口業務（団体スタッフ6名、市スタッフ5名） <ul style="list-style-type: none"> 1日2交代制（日勤・夜勤）常時2名（1日4名）体制。 団体スタッフ1か月約80回勤務 市スタッフ1か月約60回勤務 事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> NPO法人実務講座2事業 計8名参加 NPO法人の会計と活動計算書、NPO法人の会計&税務個別無料相談会 市民活動応援講座5事業 計107名参加 NPO法人のつくり方、初めての助成金、思わず目を引くNPOのための情報発信、居心地の良い場のつくり方、事業報告書の書き方 市民活動ボランティア啓発事業2事業 計1,864名参加 ユースボランティア、市民活動センターまつり IT講座、IT相談会4事業 計293名参加 HP作成講座、Excel講座、パソコン相談会、パソコン交流かふえ 団体交流事業7事業 175名参加 まちづくりミーティングこみゅカフェ5回、NPO企業パートナーシップミーティング、利用団体交流会 		
実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。			

3. 市民活動センター機能強化

(1) 相談機能の強化

・相談件数 227 件 (※264 件)

(H28 年度 176 件、H29 年度 211 件 (※222 件)) ※登録に関する相談を加筆
前年比 42 件増、119%

相談内容	登録団体	一般団体	市民・登録外団体	合計
市民活動団体を知りたい	7(3)	1	32(27)	40(30)
ボランティアをしたい	1(0)	0	39(38)	40(38)
団体を作りたい	1(0)	0	11(9)	12(9)
センター利用相談	1(4)	1	6(24)	8(28)
団体運営相談	26(35)	0	7(11)	33(46)
助成金の情報を知りたい	14(7)	0	3(5)	17(12)
NPO 法人を設立したい	2(2)	0	7(7)	9(9)
登録に関する相談	-	-	37(11)	37(11)
その他	19(7)	1	48(32)	68(39)
合計	71(58)	3	190(164)	264(222)

※ () 内は H29 年度実績。一般団体は 30 年度から集計。

30 年度も登録団体・登録外団体からの相談が増えた 67 件増 (154%)
特にセンターに登録したいという相談が急増した (26 件増)。市民センター
閉鎖に伴うものの他、30 代～40 代の若い層の団体登録の相談が増えた。

・「相談に関するアンケート(1 月)」の実施

回答 152 (146) 人、108 (81) 団体。相談に対するニーズを把握。(カッ
コ内は 29 年度)

会員、ボランティアが少ない (増えない) と考えている団体が前年比 (5
件→17 件) と 3 倍強となっている。また、協働事業を提案したいが前年
比 (5 件→14 件) と 3 倍強となっている。

・「専門相談コーナー」5 月開始 月 2 回 (第 2 火曜・第 3 木曜)

専門相談件数 5 件 (継続 2 団体) 運営・助成金に関する相談があった。
専門スタッフがセンターに常駐したことにより日常的に相談対応が出来
ることになったため、専門相談コーナーの件数は若干減った。NPO 法人か
らは税務会計の個別相談希望の声があり (30 年度個別相談での評価が高
かった)、次年度に活かしたい。

(2) コーディネート機能の強化

多様な主体の交流の場の創出

・まちづくりミーティングコミュ☆カフェ 全 5 回

6/13 「認知症」参加 13 名、8/8 「防災」参加 13 名

10/10 「こども食堂」参加 24 名、

12/12 「若者のまちづくり」参加 17 名

1/16 「旅のことばカード (認知症)」参加 15 名

・1/30 企業と NPO のパートナーシップミーティング

市民活動団体 14 団体 22 名、企業 8 社、11 名

・3/17 利用団体交流会 参加 60 名

(3) 情報発信機能の強化

- ・センターホームページのリニューアル（平成30年3月末）

団体のイベント情報や会員募集のコーナーを設け、より多くの方に情報を発信できる仕組みとした。スマホやタブレットにも対応しているため若い世代への発信が期待できる。

- ・情報紙のリニューアル（平成30年3月末）

誰もが手に取り読みたくなる情報紙をコンセプトに紙面デザイン、記事内容を検討し、全面カラー化し、市民活動団体の取材記事を大きく取り上げるなどの工夫を行った。

- ・新センターパンフレットの作成（2000部）

移転に伴い、新しいパンフレットを作成、落成式、その後の内覧会で300部以上を配布した。

(4) 研修機能の強化

- ・今年度から全ての団体向け講座を団体が企画運営。新たにNPO法人向けの実務講座（会計と活動計算書、会計税金個別無料相談会）を導入。組織基盤強化に役立っている。

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

平成30年度実施協働事業 決算報告書

	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収 入	市の支出	10,134,164	9,846,610	▲287,554	負担金 10,134,164 円 ※支出残 287,554 円を戻入。
	団体の支出	60,000	10,208	▲49,792	会費より充当
	事業収入	90,000	105,400	15,400	講座収入 (参加者受講料) コミュ☆カフェ 5 回 32,000 円、講座 7 回 67,500 円、交流会 5,900 円
	収入合計	A 10,284,164	B 9,962,218	B-A ▲321,946	
	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、支出内容・単価・数量等)
② 支 出	人件費	8,316,000 (8,316,000)	8,105,520 (8,105,520)	▲210,480	常勤延べ3人 4,610,000 円※1日7h+超過勤務含 非常勤延べ5人 3,422,520 円 ※1日5.75h+超過勤務含 事業運営協力、チラシ作成等延べ3人 73,000 円
	法定福利費	828,564 (828,564)	697,461 (697,461)	▲131,103	法定福利費 697,461 円※労災保険 (38,049 円含)
	旅費交通費	492,000 (492,000)	457,228 (457,228)	▲34,772	常勤・非常勤交通費 445,258 円 取材撮影協力交通費 4,970 円 事業協力交通費 7,000 円
	講座費	208,000 (118,000)	215,484 (118,000)	7,484	講師謝金 215,484 円
	接待交際費	0	18,124 (0)	18,124	コミュ☆カフェ、交流会の茶菓子代、講師手土産等 18,124 円
	消耗品費	0	8,993 (8,993)	8,993	紙コップ、封筒、表彰状、祝儀袋、PCソフト購入費、領収印、洗剤等 計 8,993 円
	専門相談費	72,000 (72,000)	25,000 (25,000)	▲47,000	専門員謝金 1500×2h×5回=15000 円 専門相談員によるスタッフ研修 5,000 円×2=10,000 円
	調査費	36,000 (36,000)	2,000 (2,000)	▲34,000	団体調査費 2,000 円
	情報発信費	132,000 (72,000)	236,946 (236,946)	104,946	情報発信会議費 1000×2h×6回×2h=24,000 円 印刷費 70,750 円 ひらつかの風デザイン費 68,000 円(計6回発行) 新センターパンフレット作成費 74,196 円(2000部)
	研修費	49,000 (49,000)	55,400 (55,400)	6,400	相談員研修、日本NPOセンタースタッフ研修、会計講座、NPO支援研修等 計 55,400 円
HP管理費	150,600 (150,600)	129,600 (129,600)	▲21,000	保守管理費 129,600 円(消費税込み)	

	通信費・支払手数料	0	10,462 (10,462)	10,462	通信費 574 円、給与振込手数料・講師謝金振込手数料等 9,888 円
	支出合計	C 10,284,164 (10,134,164)	D 9,962,218 (9,846,610)	D-C ▲321,946	
③	収支決算額 B 9,962,218 円 - D 9,962,218 円 = 0 円				【備考】

※支出額の（ ）内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、**事業に関する収支すべて**を記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	特定非営利活動法人湘南 NPO サポートセンター	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	ひらつか市民活動センター協働運営事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	お互いが共通の目的に沿って事業を実施できたと考えている。相談業務の強化に加え、情報発信の強化、新規事業の実施、センター業務の引継ぎ、既存事業の引継ぎ等、常に共有しながら進めることができた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	事業の進捗、引越しに伴う業務や懸念事項について、常に協議しつつ、互いの役割を確認しあいながら実施できた。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	4	日常的に発生した処々の問題については、即時に相談・協議することができた。勤務がシフト制のため、センタースタッフ間の情報共有が難しい面もあった。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	5	立場を尊重していただいたと思う。反対に団体としても市の立場を考慮しながら実施できた。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	4	互いのノウハウを提供し合いながら事業を行うことが出来た。効果と言えるかどうかは不明だが、利用団体には少しづつ民営化に向けて進んでいることをご理解いただき、センターに期待する声をいただいている。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	今年度の目標「情報発信の強化」に向けて、ホームページ改定及び円滑な更新作業、情報紙「ひらつかの風」の発行などスムーズに行えた。利用団体のイベント情報がホームページから閲覧できるため、とても喜ばれている。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	5	スタッフの入れ替え、市雇用の嘱託職員の途中退職、センター移転・引っ越しなど、予定外の支出もあったが、都度相談しながら効果的に行うことが出来た。結果的に支出残があり返還が生じた。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 上述にも記載したが、ホームページや情報紙の評価も高く、掲載を希望する団体の声が増えた。スタッフとの情報交換も密になり、概ね満足をいただけたのではないかなと思う。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	市民目線・専門性を活かした柔軟な相談対応、助言提案は団体にとって安心感があり心強い。交流事業は多様なセクターとの出会いにより活動の活性化が期待できる。
団体のメリット	市民活動センター運営事業が加わることで、より多くの団体から信頼を得ることが出来る。平塚市との協働を実施することで多方面からの信用と信頼が担保される。
市のメリット	当事者性・専門性を活かした中間支援組織としての機能を活かすことによって、これまで課題とされてきた諸処の問題の解決が進み、市民活動の活性化が進むと考える。

(4) その他、課題やその改善方法など

31年4月より見附町に移転し、新しい市民活動センターとしてスタートした。担当課は本庁に戻り、31年度から本格的に団体のみで運営を始めることになる。まずは利用者優先で施設利用を丁寧にご案内すると共に、当事者目線での運営を心がけたい。崇善公民館及び崇善地区の皆さんとの相互利活用を進めながら、市民活動と地域活動の連携・融合を図っていく。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（ 提案型 提案型以外）
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

情報紙・ホームページを活用した情報発信を引き続き強化するとともに、多様な組織との連携・ネットワークを新規の取り組みや渉外活動を通して拡大していく。そのためには人材の育成も急務であることからスタッフ研修も充実して実施したい。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	協働推進課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	ひらつか市民活動センター協働運営事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	3年間の協働運営による段階的民営化で、市民活動団体への支援機能を強化するという目的、2年目の目標として、情報発信機能、研修機能の強化を図りながら、新施設への移転準備を進めることを常に確認し、共有できた。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	4	概ね予定通りの役割分担で実施できた。スタッフの入れ替わりなどの対応や、年度末の引越しにともなう業務など、臨機応変に双方で協議しながら役割分担をして実施できた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	日常的に相談しながら事業を実施できた。月に1回のスタッフミーティングで団体スタッフ、市スタッフの情報共有、意見交換を実施した。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	団体向け講座や、ホームページ・情報紙による情報発信など、団体のノウハウを活かした団体支援ができるよう、団体の考え方を取り入れた。センターの移転など市の都合による変化もあったが、柔軟に対応頂いた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	段階的民営化の2年目で、利用者にも運営体制の変化についてご理解頂きながら進められている。団体の知識やノウハウを活かしつつ、施設移転や公民館との連携などでは、担当課が庁内と連携してスムーズに事業を進められた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	情報発信機能の強化（ホームページ、情報紙のリニューアル）、研修機能の強化（NPO 法人実務講座の実施）において、団体のノウハウを活かした強化が図られた。また、徐々に団体スタッフの育成も進み、民営化に向けた準備が進められた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	5	相談件数の増加や、情報発信機能等の強化など十分な成果があげられた。 移転やスタッフの入替えなどにも、柔軟に対応できた。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など各事業のアンケートでは、概ね利用者から高い評価を頂いている。相談件数が2年連続で増加していることから、利用者からは高い評価を頂いていると考える。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	団体の当事者性・専門性を活かした相談支援や情報発信、講座、交流会等の開催により、団体の抱える課題の解決につながった。
団体のメリット	公的中间支援施設の運営に参加することで中間支援団体として、信頼性が高まった。市スタッフとの協働運営によりスムーズに業務の引継ぎ、人材育成ができた。
市のメリット	団体の当事者性・専門性が加わったことで、市民活動センターの機能強化が進み、市民活動の活性化につながった。

(4) その他、課題やその改善方法など

平成31年度より、団体スタッフのみでの運営体制となり、施設も見附町に移転したことから、新しい施設での安定した運営体制の構築と、合築した崇善公民館との連携や、公民館利用団体、自治会等との交流の機会を増やしていく必要がある。そのためにも、引き続きスタッフの育成に注力することが重要となる。

(5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施（提案型 提案型以外）

行政が単独で実施

その他（

休止または終了

団体が単独で実施

）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

3カ年の協働運営最終年度として、完全民営化に向けて、体制整備を図るとともに、人材育成を進め、市民活動団体の支援に加え、地域や企業などとの連携も進めていきたい。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	特定非営利活動法人 湘南 NPO サポートセンター	担当課名	協働推進課
事 業 名	ひらつか市民活動センター協働運営事業		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

双方の立場を尊重しながら、目的を共有して、協働できたという評価で一致した。
相互効果・波及効果の評価の違いは、市民活動センター運営全体についての利用者評価について、アンケート等を実施していないため、把握しきれていないことを評価に反映したかの違いであり、双方の見解に相違がないことを確認した。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

協働2年目の目標である「情報発信機能」「研修機能」の強化について、ホームページ、情報紙による情報発信、NPO 法人実務講座などにより、予定どおり進められ、また、1年目の目標であった「相談機能」強化についても、2年連続で相談件数が増えており、高い成果を確認した。
引越越し移転や、スタッフの入れ替わりなど、臨時的な課題についても、協議しながら柔軟に対応できた。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

市民・団体・市のメリットについて、双方の考え方は一致していた。

2年間の協働運営で、公営スタッフのノウハウ等を引き継ぎ、団体の専門性・当事者性を活かした事業運営を取り入れながら、徐々に団体スタッフのみで運営できるまで人材の育成も進み、平成31年度からは、新施設へ移転し、事業運営は団体スタッフのみで実施できるようになった。

(4) その他、課題やその改善方法など

平成31年度は、新施設へ移転し、団体スタッフのみでの運営となるため、団体の人材育成をさらに進めるとともに、崇善公民館や、地域の団体との交流、連携を深め、市民活動と地域活動の融合についても進めていきたい。

また、担当課が市役所本館に事務所を移転したため、日常的な情報共有、協議の時間を確保できるように、密な連絡、担当課職員が定期的に市民活動センターへ出向く等、対応していく。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（提案型 提案型以外） 休止または終了
行政が単独で実施 団体が単独で実施
その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

協働運営3年目として、完全民営化に向けた体制整備、人材育成を進める。情報発信の強化を続け、市民活動、地域、企業など多様な組織との連携・ネットワークの拡大に向け、渉外活動にも力を入れていく。